



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

ジェンダー・アドバンス・トレーニング報告

Eloisa Dukha Borreo



アジア・太平洋YMCA同盟 (APAY) 主催のジェンダー・メインストリーム化(主流化:ジェンダーの問題をより顕在化させること)に関するアドバンス・トレーナーズ・トレーニングが、2013年6月3日~10日、タイ・バンコクのバンコク・クリスチャン・ゲストハウスにて開催されました。バングラデシュ、インド、インドネシア、日本、フィリピン、スリランカ、タイの7か国のYMCAから全16人(うち女性12名、男性4名)のスタッフやボランティアが参加しました。インドの社会組織ビスター(Visthar)のプログラム担当ディレクターMercy Kappen氏がメイン・ファシリテーターおよびリソース・パーソンを務め、アジア女性文化・神学資料センター(Asian Women's Resource Centre for Culture & Theology)のコーディネーター代行Liza Lamis博士がキリスト教の観点からの知識や課題を提供し、また毎日の礼拝でも聖書に関する話をされました。2012年11月に開催されたジェンダー・メインストリーム化の基礎研修では、各YMCAや各国YMCAにおいてジェンダーのメインストリーム化を行う際、トレーナー(指導者)となりうるスタッフやボランティアの能力をさらに高めるために、フォローアップ研修を行うことが要請されました。

アドバンス・トレーニングを通じて、参加者は、ジェンダーのメインストリーム化は単純に男女を区分けするという課題である以上に、男性中心主義・家父長制(patriarchy)や性的不平等の問題の包括的な課題であることを確認しました。トレーニングが参加型かつ創造的に、ひとつひとつの問題をつぶさに考えていく方法で行われたため、参加者はジェンダー・メインストリーム化における課題、コンセプト(考え方)、原則についてよりよく理解することができました。さらには、参加者同士がグループ内の他者への態度により配慮することができる「ともに学び合う集団」の中で、これらの課題やコンセプトを参加者自身に内面化しました。6日間にわたるこのワークショップでは、さまざまな分野のトレーニングのモジュールや要素が用いられました。それらの要素は、キリスト教エキュメニカル・ムーブメント/運動としてのYMCAの視点からの礼拝や、聖書からの学びと課題、規範の開発、役割の配置といったものです。また今回参加したYMCAのジェンダーに関する現状のシェア、ジェンダーのコンセプト(考え方)、社会的な関係、組織と構造、ジェンダー分析の深化、ジェンダー・メインストリーム化の視点や戦略などにも取り組みました。参加者は研修イベントを通じ、モジュールのプレゼンテーションや、それぞれのYMCAでのジェンダー・メインストリーム化を目指し、効果的にジェンダーについて感じ、気づくための「規範(code)」を用いながら、教えるスキルを身に着けました。

この機会からはたくさんの学びがあり、参加者は経験から間違いなく多くの影響を受けました。彼女らは、YMCAの同僚、友人、プログラムのパートナー、活動受益者のために自身の考えや計画を遂行するでしょう。そうすることによって、ジェンダーに敏感で分け隔てのない文化をYMCAに作り出すことができるのです。

日本からは、長瀬徳子氏(横浜YMCAスタッフ)が参加しました。

バングラデシュYMCAスタッフ・オリエンテーション

Duncan Chowdhury

バングラデシュの各YMCAに新しく就職し、YMCAに関するオリエンテーションを必要としているスタッフ対象の研修プログラムの進行役を務めたことは、私にとって忘れがたい経験となりました。

このバングラデシュでの研修の主要な目的は、YMCAの歴史、使命や現在の重点事項についてのオリエンテーションをすることでした。それぞれのYMCAをさらによくするための基礎的なスキルを身に付け、よい組織運営を行い、会員やユースをYMCAの活動に誘い、そして、それぞれのYMCAを自立した組織にすることなどがその目的でもあります。

この研修は、5月19日～28日まで、ダッカ・サバルにあるYMCAトレーニング・センターで行われました。初日には、YMCAの歴史や使命について話し合われました。参加者は、パリ基準やカンパラ原則、チャレンジ21などといった歴史的な文書について、また、これらの文書が現代の状況や環境においてどのように解釈され、説明されるのかについて説明を受けました。

続いて、グローバル・オペレーティング・プラン(GOP)の3本の柱である「ミッションの明確性」、「組織の安定性」、「社会的な妥当性」について入念に話し合われました。YMCAを運営する際、3つの柱を等しく重要視することは、参加者にとっても難しいことでした。それぞれのYMCAでは、どれかの部分が欠けており、3つすべての分野をさらに改善するために働き、解決しなければならないことに気づきました。

同日には、YMCAの組織についても説明されました。会員、役員(理事・常議員・評議員他)、職員や総主事の役割について、特に強調されました。総主事の規定や法定義務、会員の登録や資格停止(cessation)、規約改定の手続きについても、話し合われました。

YMCA組織の分析によって、それぞれのYMCAの現状、特にYMCAのよい組織運営について実感することができました。また、参加者には、各YMCAにおいてSMART戦略計

画(訳注:原文通り)を準備するためのプロセスが説明されました。

5月27日からの2日間は、YMCAのレイ・リーダー、つまりMSプロセス(訳注:原文通り)にある人もワークショップに参加しました。1日目は、リソース・モビリゼーション(財政的/人的資源の発掘)、特に各地での寄付強化について話し合われました。グループワークごとに効果的な財政強化キャンペーンのデザインづくりが行われました。よりよい組織運営のあり方について議論され、YMCAの役員の役割や、またAPAYが作成した役員向けの組織運営の規範について評価されました。

最終日には、参加者はさまざまな実践演習を行い、YMCAが直面する課題を見出し、それらを克服する方法や手段について熟慮しました。参加者はYMCAのよい組織運営のさまざまな点を制度化し、YMCAにおいて会員とユースの参画を保証することを決定しました。

最後に、私のダッカ滞在を温かく迎えてくださったバングラデシュYMCA同盟に感謝申し上げます。イギリスのYケア・インターナショナルには、この研修のための財政的な支援をいただいたことに感謝いたします。

東ティモールYMCA—私の人生を変えたYMCA

Richard Kaing



2007年、フランシスコはわずか13歳でYMCAのサッカー・トレーニングチームに加入しました。フランシスコはサッカーが大好きで、毎週サッカーの練習をしにテラサンタYMCAに通っています。東ティモールYMCAのプログラム・セン

ターはテラサンタ地区にあります。彼の兄弟のうち2人も、YMCAのサッカーチームに所属しています。6月に東ティモールYMCAを訪問したとき、彼が20人余りの子どもたちにサッカーを教えているのを見ました。東ティモールYMCAには約250人のサッカーのメンバーがいて、8つのチームを構成しています。サッカー場は、朝6時から夕方18時までずっと使われています。スタッフによると、フランシスコはYMCAの子どもたちを指導しているだけでなく、彼自身も東ティモール代表チームの一員なのです。休憩時間に、彼と話すことができました。彼は、8人兄弟の大家族の出身であると言っていました。そのうち3人はYMCAサッカーチームでプレーしています。彼には東ティモール代表選手として、他のアジアの国々を訪ねる機会が与えられました。さらに、現在、大学に通い、スポーツを専攻しています。現在3年に在籍し、学費は全額奨学金でまかなっています。彼はまだ19歳で、これから長い人生が待っています。彼のようにサッカーが好きな、経済的に恵まれない子どもたちにサッカーを指導することで、YMCAに恩返ししています。いつかフランシスコが世界屈指のサッカー選手になれるよう、願い、祈りましょう。YMCAのサッカー・クラスから、これまで4人が14歳以下の東ティモール代表選手に選出されたと聞いて、私は驚きました。彼らもまた、東ティモール代表として海外に行くチャンスを得たのです。彼らの写真はスポンサーによって、デリ中に飾られています。東ティモールYMCA、すばらしい！

2006年、現在大阪YMCAで勤務する石橋英樹さんが、東ティモールYMCAにサッカーを紹介しました。YMCAは毎年YMCAピース・カップを開催しており、その費用は韓国・ヨスのワイズメンズクラブによって支援されています。

変革をもたらす道具／ツール

Max Ediger

私たちは、毎日ものを書き、多くの方は定期的に写真を撮り、ときによってはかなりの人がビデオを撮るでしょう。私たちは写真撮影やビデオ撮影の専門家でなくても、写真やビデオの撮影が楽しく、リラックス効果があるものだと感じています。しかし、書くことや写真を撮ること、ビデオを撮ることが、変革をもたらす道具／ツールであると考え、どれほどあるでしょうか。

2013年6月9日～15日まで、カンボジア・シェムリアップ

に SOP (School of Peace: 平和学校) の修了生のグループが集いました。書くことや写真やビデオを撮ることをどのように効果的に使えば、周縁化された人々について物語り、彼らの課題を分析し、コミュニティーの中に宗教間の平和をつくるために協働できるか考えました。アメリカの Victoria Rue 氏が、平和のために苦闘する人の生活をどのように見、感じ、共感すればよいのかを、ICF (Interfaith Cooperation Forum) の 5 人の新たな書き手に助言しました。彼女のガイダンスを通して、各自でインタビューされたことを踏まえ、内省的なモノログやストーリーを書きました。それによって、一人ひとりの話を聞いてもらうことができるのです。

カンボジアのメノナイト中央協会 (Mennonite Central Committee) で活動する Michael Bade 氏は 5 人に、ビデオ撮影を通じたストーリーテリングの実践について説明しました。時間が限られた中でしたが、光の加減、カメラのアンクルといったビデオのテクニックを用い、ビデオによってどのように人々の関心を高めることができるか考えました。

写真については Max Ediger 氏が担当し、3 人の ICF 写真家に、写真が人々の関心を高める情報であり、また人々を活動に取り込むものであると紹介しました。どのように写真を撮れば、見た人が感じ、考え、そして行動してくれるかに焦点を絞り、さまざまな構成のテクニックを試しました。



最後の夜には、それぞれのグループで数日間をともに過ごした成果を報告しました。彼らが用いたツールをどのように使えば、周縁化された人々に自身のストーリーを話すことを促し、彼ら自身のムーブメント／運動を起こすことができるか、考えをシェアしました。

参加者はそれぞれの故郷に戻ってからも、今回学んだ特別なツールを使って活動し続けるでしょう。これらのツールを用いながらアクティビティーを行うことで、コミュニティーを改善するという目標をもちつつ、これらのツールを用い、ど

うすればより効果的に宗教対立のない平和なコミュニティーを構築できるか、ICF は参加者からのフィードバックや新たなアイデアを楽しみにしています。

総主事デスクより・・・
チェンジ・エージェント

アジア・太平洋YMCA同盟総主事
山田公平



3年前、台南 YMCA55周年記念式典で印象に残る話を聞きました。台南Y理事長 Chen Chin-Seng 氏の話で、沢山の課題を与えられた内容でした。一部を紹介しま

す。
人々はどんどん豊かになっているのに、国はどんどん貧しくなっているのでは？

若者は本を読まなくなっているのに、大学には多くの若者がいけるようになっている。

子どもの数は減っているが、高齢者はどんどん増えている。

結婚しない人が増え、離婚も増えている、さらに出産はする女性は減っている。

社会はどんどん変化しているのに、社会の価値観はますます不透明に。

世界的な気候変動が起きつつある。
これら実際に起きている現象を、私も同じように、どうしてかと感じています。Chen さんの話のポイントは、「YMCAも本来のYMCAとしての性格、価値を失いつつあるのでは？」というもので、「YMCAこそ、今、変化が必要であり、地域社会に新しい価値をもたらすために、創造的かつ変革的(イノベティブに)ならなくてはならない」と言うものでした。

今日は、また別の新聞記事を読みました。それは21世紀に何が起きているのかという問いかけでした。「先進国にはモノが行き渡ってあふれ、新興国も追いつける。それを支える環境や化石燃料に限界が見え、高齢化の道をひたすら歩む。モノを増やす経済活動が行き詰まるのは必然。」(朝日新聞6月19日)地球資源には限界が見えはじめ、今の経済活動を続けると地球環境にも影響することが分かってきました。「量的な拡大を求めめるのではなく、より高い質的な価値

を創造する時代に入った」と指摘しています。

この問いかけにすぐ応えることはできませんが、YMCAこそ、応えていけるような活動を生むべきではないかと思えます。わたし達の未来の生活のあり方、開発のあり方を考え、新しい価値観を求め、イノベーションを進めていく、まさに新しい価値観に基づいて新しい教育、文化、福祉を創造する、そんなYMCAになれないかと考えています。そのためには、イノベーション、創造性、新しい試み、それを実行。そんなYMCAはどう作れるのか。

世界YMCA同盟、アジア・太平洋YMCA同盟、共に考えているのは、YMCAが新しい時代へのチェンジ・エージェントとなれるかということ。そのため、世界各国から240余名の若い人たちを選び、彼らをチェンジ・エージェントと呼び、彼らが次の時代に何を求め、変化をもたらすヒントを与えることができるのではないかと期待しています。彼らが何を考え、将来どんな提案をするのか、共に動き、考え、話し合う場を提供しようとしています。新しい時代の新しい価値観、社会作り、そのためにYMCAには何が出来るかを若い人たちの視点から生み出す機会になるのではと期待しています。いま、YMCAは、地球市民、アントレプレナーシップ(企業家)、宗教間対話の促進、環境への取り組み、そしてチェンジ・エージェントと共にグローバルな結束を進めようとしています。まさに時代の先頭に立つ団体として。

YMCAユース・カンファレンス(インド)

Roger Peiris

APAYは、2013年8月23日～28日、インド・イェラギリ・キャンプで、ユース・カンファレンス2013を開催します。テーマは「友情、文化の追求、ソーシャル・アクション」です。



インドYMCA同盟はこのユース・カンファレンスを主管することで、Uni-Yの50周年を祝います。

このカンファレンスは、アジア・太平洋地域のユースにとって友情の喜び、文化の追及、ソーシャル・アクションを祝い、共有する場となります。アジア・太平洋地域から100人、インドから60人の参加を見込んでいます。

参加者は、インドの社会経済的、文化的な多様性や、インドの若者の生活を彩る新たなトレンド「神秘的なインド (Incredible India)」を経験する貴重な機会を得ることができるでしょう。

第31回 APAY アドバンス・スタディー・プログラム

APAY アドバンス・スタディー・プログラムについて発表するときがきました。第31回 APAY アドバンス・スタディー・プログラムは、11月4日～29日、香港・マオオンシャンのウーカイシャ・ユースビルレッジにて開催されます。

このプログラムはプログラム開発、実施に活動的にかかわる中堅YMCA主事対象の研修です。

お問い合わせは日本YMCA同盟まで。

ユース参画リーダーシップ開発委員会より アジア・太平洋地域のチェンジ・エージェント紹介



永岡美咲(日本)

YMCAで働き始めてから5年目を迎えています。最初の2年間は東京YMCA山手コミュニティーセンターで語学事業と学習障がいの子もたちのデイキャンププログラムを担当していました。山手コミュニティーセンターは、子ども、ユース、成人、高齢者のすべてを対象としたプログラムが行われています。まさに、地域の皆様のためのYMCAです。

現在は日本YMCA同盟におり、ユース対象の地球市民育成プロジェクトを担当しています。このような国際プログラムは、ユースにとって世界のことを知るとてもよい機会となります。世界YMCA同盟総主事の Johan Vilhelm Eltvik 氏が、6月14日～16日、国際青少年センター東山荘で開催された第2回同盟協議会に出席しました。今回の協議会は、出席者の3分の1がユース世代でした。今までにこれほど多くの

ユースが参加したことはありません。YMCAに関するさまざまな意見を共有することができ、よい機会となりました。日本のYMCAにかかわるユースを世界規模のYMCAムーブメント／運動につなげることは非常に大切な働きです。ぜひ多くのユースに、APAY グリーン・チャレンジ 2013(10月18日～31日)やYMCAワールド・チャレンジ 2014(6月6日)に参加してほしいと思います。



Betsy Williams(インド)

2013年8月23日～28日、インド・イェラギリ・キャンプで、ユース・カンファレンス 2013 が行われます。テーマは「友情、文化の追求、ソーシャル・アクション」です。インドYMCA同盟はこのユース・カンファレンスを主管することで、Uni-Y の50周年を祝います。

このカンファレンスは、アジア・太平洋地域のユースにとって友情の喜び、文化の追及、ソーシャル・アクションを祝い、共有する場となります。アジア・太平洋地域から100人、インドから60人の参加を見込んでいます。

参加者は、インドの社会経済的、文化的な多様性や、インドの若者の生活を彩る新たなトレンド「神秘的なインド (Incredible India)」を経験する貴重な機会を得ることができるでしょう。



Zoe Hsiao(台湾)

YMCAに入職する前の私は、大学を卒業後、企業で働くごく一般的な人でした。自分自身の仕事やプライベートな生

活以外、何も気にすることはありませんでした。

YMCAに入ってから、私の生活や態度はガラッと変わりました。それは単に世界平和や平等な社会を追求するというビジョンだけでなく、YMCAでの働きは本当にスタッフやボランティアにインパクトを与えるものです。キャンプ、APAYの会議、フリーマーケット、ファンドレイジング、国際ボランティアワークの他、台中YMCAコミュニティー・カレッジの運営などに携わってきました。

私は、YMCAが文化交流や視野を広げる機会をさらに多く提供することによって、若者に変化を与えることができると思います。YMCAにいられて、とてもうれしいです！



Alvin Kan(香港)

2013年4月、タイ北部でボランティアをしました。韓国から来たラオナッティ(RaonAtti)参加者4人(Pla、Kun、Doi、Nam…いうまでもなくタイ語の名前です)に会いました。ラオナッティは、「アジアの友人」という意味です。

チェンライYMCAで過ごす間、子どもたちのデイキャンプをしたり、山岳民族の家族を訪問したり、YMCAセンターの修繕をしたり、口唇裂・口蓋裂の子どもたちのための街頭募金を行ったりしました。ともに一生懸命に働き、楽しいことも共有しました。ラオナッティのスローガンのひとつは、「世界を見つめ、地域に生きる(Think Globally, Act Locally)」です。私にとっては、単なるフィールド・ワークではなく、地に足をつけ、自分の生活を反省する経験となりました。YMCAという大きな家族の一員としていただけることに感謝します。

チェンライYMCA、チェンマイYMCAとよい学びの経験を支えてくれた皆様に感謝いたします。

ラオナッティの詳細については

<http://www.raonatti.org/>

をご覧ください。

<p>発行元 アジア・太平洋YMCA同盟 Asia and Pacific Alliance of YMCAs 23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692 e-mail: office@asiapacificymca.org</p>
